

2020/4/17

山梨県森林環境部大気水質保全課 御中

今回の公聴会の開催と中止について一言申し上げます。

全体を俯瞰することなく仕事だけにのめり込んでいると、戦争が無駄で負けると分かっている、戦争を終結する判断のできなかつた日本、あるいは、原発が生物に取り返すことのできない被害を与え続けることになっていると分かっている、自ら止める決断のできない日本という国に、さらに拍車をかけることになるのではないですか？

経済成長第一で今まで進んできた日本と言う国に住む一人の国民・市民として、考えなければならないことがいっぱいあります。

日本の主権をアメリカに譲り渡して、食料の生産をおろそかにしてきた日本ですが、いつまでもアメリカが日本に農産物を輸出するとは限りません。新型コロナウイルスの影響がどこまで広がり私たちの暮らしに影響を与えるのかも見当が付きません。

そういう状況の中で、中部横断道だけは経済成長の数字を上げるため、もうけのために、沿線住民がどんなに反対しても作るという国交省の流れに乗って山梨県庁は、それに手をかすだけで良いのでしょうか？ 日本の環境アセスは作るためのもので、問題があるから止めるという機能を持っていません。だからこそ、地方自治体は誰の立場に立って物事を進めるのかが問われてくるのです。この辺をあいまいにして、個々の責任について考えないで言われたことだけをやっていると、どこも責任を取れるところが無くなってしまいます。

東京電力も、福島第一原発事故で、トップが責任を問われましたが「知らなかった」で済むような無責任国家日本です。経済産業省の官僚も、地方自治体の役人もどこも責任を足らないで、ふるさとを追われたままの人たちが大勢います。当然私たちにも責任はあります。責任の無いのは子どもたちだけで、その子どもたちが、一番被害を受けています。

私たちの世代で自然や農地を壊し続けていますが、未来の子どものためには高速道路より自然と豊かな農地をどう残すかが大事です。いろんな制度を変えなければならぬのだからすぐにはできません。それでも、いつもそのことを頭に入れておかなければと思います。沿線の人たちの叫びを無視すると、それはいつか自分たちにも被害が跳ねかえってくるでしょう。その時では遅いのです。一番犠牲になる人たちの声に沿った方法を考え出されることを望みます。

佐藤桂子